

# インナー大会プレゼン部門 2018 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

| 大学名 (フリガナ)         | 学部名 (フリガナ)       | 所属ゼミナール名 (フリガナ)  |
|--------------------|------------------|------------------|
| フリガナ) タカサキケイザイダイガク | フリガナ) チイケケイサクガクブ | フリガナ) モリチカコゼミナール |
| 高崎経済大学             | 地域政策学            | 森周子ゼミナール         |

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

| チーム名 (フリガナ)      | 代表者名 (フリガナ)   | チーム人数<br>(代表者含む) | PPT 内動画<br>(有・無) | 動画使用<br>スライドページ |
|------------------|---------------|------------------|------------------|-----------------|
| フリガナ) コドモヒンコンチーム | フリガナ) ヒラカタスナオ | 5人               | 無                |                 |
| 子どもの貧困チーム        | 平形純直          |                  |                  |                 |

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

## 研究テーマ (発表タイトル)

子供の貧困～二種類の政策で導く新たな解決策の提案～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

### 1. 研究概要 (目的・狙いなど)

子どもの貧困問題において、政府や地方自治体の貧困家庭への支援が経済的なものに偏っている点を問題点として挙げ、さらにもう一つの問題点として、世帯収入が少ない世帯ほど、家庭外でコミュニティを築けていないというものがあり、この二つの問題の解決策として、二種類の政策を組み合わせることで解決を図るといった内容の研究成果を発表。

### 2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

子どもの貧困とは貧困基準以下の子供たち、またはその子供たちの生活のことを指す。貧困基準とは一国における全国民の手取りの世帯所得を世帯人数で調整し、その中央値の50%のラインのことを指す。日本を例に挙げると、日本の全国民の手取りの世帯所得を世帯人数で調整した、中央値の値は約250万円であり、日本の貧困基準はその中央値の半分となるので約125万円となる。また、子どもの貧困には二種類存在し、この貧困基準を用いて論ぜられる相対的子どもの貧困と生存可能な最低限度の生活基準を下回った生活。あるいはその生活をしている人々について論ぜられる絶対的貧困がある。

子どもの貧困による問題は数多く存在し、健康問題、学習能力の低下、非行・虐待、自己肯定感の欠如など、子どもに対して様々な悪影響を与えることがわかっています。特に問題と指摘されているものが貧困の連鎖であり、幼少期貧困であった子どもは成人した後でも貧困に悩まされることが多く、また子どもが生まれることによって貧困も子どもに受け継がれてしまうという問題がある。

### 3. 研究テーマの課題

現在、政府が行っている子どもの貧困の主な取り組みは児童手当などの現金給付であり経済面での支援は比較的充実しているが、それに対して精神面、現金を給付するだけでは解決できない問題にたいしての取り組みは曖昧であり、それに伴い全国の地方自治体でも様々な取り組みを行っている、子どもの貧困に対する精神面での対策は上手くいっているとは言い難い状況にある。そのうえ、世帯収入の低い人たちほど“子どものことで相談できる相手が家庭内外にいない”、“いざというとき頼れる相手がいない”といった研究結果も発表されている。

以上のことから、

- ・経済面での支援は比較的充実しているが、精神面での支援が曖昧である。
  - ・貧困に陥っている世帯ほど家庭外のコミュニティに属しておらず、いざというときに頼る相手がいない。
- などの問題が子どもの貧困における課題として浮かびあがった。

### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

貧困に直面している世帯ほど家庭外にコミュニティを築けていない。ならば、コミュニティを作るきっかけを与える政策を打ち出すことはできないだろうか。私たちはそのように思い、結果、一つの政策で解決を図ろうとするのではなく、拠点型の政策と訪問型の政策といった二種類の政策を組み合わせて解決を図るという結論に至った。拠点型の政策は一定の拠点地を構えて行う政策のことを指し、拠点を構えることで長期的に腰を据えた政策が可能である反面、フットワーク軽さを要する問題には不向きである欠点がある。対して訪問型の政策は直接対象となる世帯訪問し行う政策であり、フットワークが軽く積極的に動くことが出来る反面、複数回、長期的な問題に対応することは不向きとされている。この二種類の政策を組み合わせることで精神面での子どもの貧困問題にアプローチを掛けた。まず、導入となる訪問型の政策で各世帯に訪問し、積極的に対象者を取り込み、取り込んだ対象者を拠点型の政策でじっくりとコミュニティを形成するよう促していく、そうした過程の中でコミュニティ内で助け合う、有事の際に相談所などの手段を利用しやすいようにしておく、訪問型の政策と拠点型の政策をつなげることで相談しやすい環境を整え、職員が迅速に対応できるようにする。相談できる相手がいるという実感を持たせ、保護者のストレスを和らげることを狙いとした。

### 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

現存の政策をより強く連携させる。

Ex

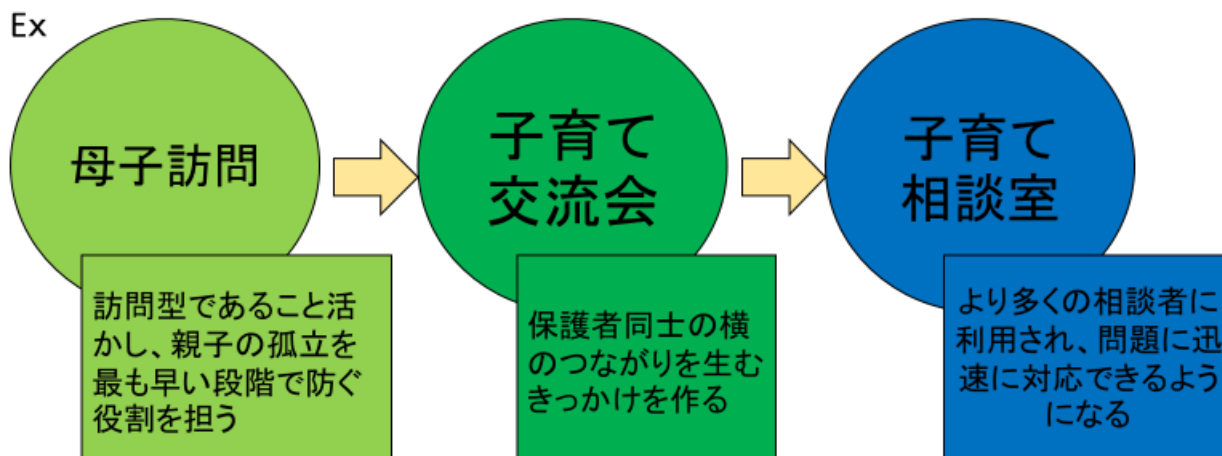
母子訪問

子育て  
交流会

子育て  
相談室

それぞれの政策を単独で行うのではなく・・・

# 現存の政策をより強く連携させる。



30

今回のプレゼンでは実際に群馬県内の地方自治体で実施されている政策を例に挙げ、私たちの提案を具体的にプレゼンしたいと考えている。

## 6. 結果や今後の取り組み

今回の研究を通して、子どもの貧困問題がいかに根深いものであるかがわずかながらですが理解できたように思えた。子どもの貧困問題は子どもを持つことによって誰もが直面しうる問題であり、また、親だけ、家族だけで解決できるほど容易なものではありませんでした。この問題を解決するためには、家族というコミュニティよりもさらに大きなコミュニティでないと解決を図れないと考え、さらに、貧困世帯の人ほど孤独に陥りやすいという研究を知り、行政のほうからコミュニティを作るきっかけ促す政策を提示できるのではないかと考えから、今回の訪問型の政策で対象者を積極的に取り込み、取り込んだ対象者を拠点型の政策でじっくりコミュニティを形成するきっかけを促すといった。子供の貧困～二種類の政策で導く新たな解決策の提案～を考え、インナー大会で発表させていただくこととしました。今後の研究への取り組みとしましては、より対象者を積極的に取り込むことのできる可能性の政策を実施している自治体はないかを調査したいと考えており、また、今回は海外での先行研究の調査。諸外国の取り組みなどを充分に行うことが出来なかったため、今後は国内の研究のみを調査するのではなく、諸外国の取り組みも研究し、私たちの研究にさらに磨きをかけていきたいと考えています。

## 7. 参考文献

- ・阿部彩（2008）『子どもの貧困』岩波新書。
- ・埋橋孝文、矢野裕俊（2015）『子どもの貧困／不利／困難を考える I —理論的アプローチと各国の取組み—』ミネルヴァ書房。
- ・群馬県各市町村ホームページ。
- ・山形大学人文学部研究年報 第13号（2016. 3）33-53
- ・阿部 彩 子どもの貧困対策としての教育 <http://www.jec.or.jp/soudan/images/kikanshi/66-2-7.pdf> 最終閲覧日 2018/9/16
- ・厚生労働省 相対的貧困率等に関する調査分析結果について [https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/soshiki/toukei/dl/tp151218-01\\_1.pdf](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/soshiki/toukei/dl/tp151218-01_1.pdf) 最終閲覧日 2018/9/11

・厚生労働省 平成 22 年国民生活基礎調査の概況

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa10/> 最終閲覧日 2018/9/5

・埋橋孝文、大塩まゆみ、居神浩（2015） 社会的支援をめぐる政策的アプローチ ミネルヴァ書房

・松本伊智朗、湯澤直美ほか(2017) 「子どもの貧困」を問いなおす；家族・ジェンダーの視点から 法律文化社

・浅井春夫ほか(2016) 子どもの貧困の解決へ 新日本出版社

#### <企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様（株式会社日経 BP マーケティング）に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡します。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HP などに発表されていない）ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・株式会社日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

---

**↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、ご提出ください**